

会議の概要(要旨)

1	会 議 名	平成29年度 第2回習志野市市民協働こども発達支援推進協議会
2	開 催 日 時	平成29年12月26日(火) 午後2時～4時
3	開 催 場 所	ゆいまーる習志野 福祉交流スペース
4	出 席 者	市民協働こども発達支援推進協議会委員 大塩委員(会長)、阿部委員(副会長)、遠藤委員、吉野委員、小藪委員、望戸委員、伊藤委員、松尾委員、児玉委員、江川委員(障がい福祉課)、鶴沢委員、安達委員、芹澤委員、山口委員、家弓委員、上原委員、足立委員、葦委員、島本委員 こども部:小澤次長 事務局:ひまわり発達相談センター 内村主幹、金坂主査、染谷副主査、中村、和田 傍聴人:2名
5	議 題 及び 会議の内容	1. 議事 (1)習志野市市民協働こども発達支援推進協議会 ①ベースライン調査からの取り組み(協議) 「ホームページサイト」の周知方法及び運営方法について 内村主幹より説明(協議会資料1) 協議 大塩会長:12月15日にHPが公開。読んでみて「いいな」と感じたところがあった。 サイトの運営方法についてどんなところが課題となっているのか? 内村主幹:掲載内容が完全に決まっている訳ではないが、1つは習志野市ならではのページができ、保護者の方々にいろんな意味で伝わっていくといい、と思っている。いろんな価値観が有る上で、何が公共性かはっきりしない点はあるが、多種多様な情報を自由に掲載できる場が市のHP以外で何か考えられるか、御意見を頂きたい。 望戸委員:メールを連絡いただいてHPを見てみた。見やすい、探しやすい。子育てに悩んでいるお母さんが見て習志野市だけでも収まるが関連情報も見られて良いと思う。課題は「もっと掲載していきたい」ということか? 内村主幹:この取組みの大元は調査の結果で「相談はしやすいが、必要な情報が得られていない」ということでの情報発信。まだ一部の情報提供の段階。ここから広げていくことを考えている。 児玉委員:前回の内容と比べ見やすくなった。バナーの所は分かりやすいが、はじめどこをタッチすればよいか分からなかった。イラストをタッチすれば良いと分かった。具体的にはどういった部分が掲載しきれなかったのか? 内村主幹:例えば「抱っこを嫌がる時の対応」はいくつもある。対応方法は見る方の考え方もあるし、情報を出す側もどんな見解で出すか、というのもあるので対応方法は最小限にした。

墓委員：読み手に優しい内容だと思いながら拝見した。皆様の意見を聞きつつ3点感じる所がある。1つは、対応方法はあまり細かく載せない方が良い。判断や親子それぞれの背景もあるので、つながるべき支援につながなくなる恐れもある。判断に関わる所は避け一般的な知識の提供に留めた方が望ましい。2点目は市民からHPの感想も聞けると良い。「とても丁寧で良い」という意見と「文字量が多くてしんどい」という意見があるかもしれない。市民の立場からの意見を聞けると良い。3点目はHPでは限界があると思う。1つの情報提供の方法論。地域の中で見直され、自治体で取り入れられているのが口コミ活動。HPの充実ももちろんであるが他の方法との組み合わせも有意義である。

松尾委員：発達に課題がある、障がいがある、と親御さんが認識している場合はつながりやすい。HPのもう一つの目的として、「ひよっとしたら・・・障がいがあるのかな、とちょっと心配に思っている人」がもう一步を踏み出すきっかけになること。もう少し踏み込んだ内容の方が良い。情報の元が「市」「ひまわり発達相談センター」であるので、同じ親御さんの立場からの声を掲載してもらえると、心配しているのは自分だけではないという勇気が出て「相談してみようかな」とつながるのではないか。違う立場の方から同じような内容を書くのも一つではないか、と思った。

遠藤委員：何人か友達に見てもらった。「ちょっと物足りない」という意見であった。障がいを受け入れている母とそうじゃない母とでは受け取り方が違う、と実感した。受け入れている方にはあまりオブラートに包まれていると分らない、と言っていた母もいる。これは認めているお母さんの意見。HPの開設の意図を伝え、現役の保育士にも見もらった。敷居を下げるには良いのでは、という意見であった。温かみのあるHPは一步を踏み出せると思う。私は手書き風でという意見であった。手書きでは読みにくい場合もあるかもしれない、電話番号の横に「相談してみよう」「お話してみませんか」など温かみのある文字の表現の仕方は大事なのではないか。

大塩会長：まずは「開設した」という段階。今の段階ではこのくらいで。受け止めには個人差がある。解決すべき相談機関につながれば、というきっかけ、それが第一歩。これから数か月の間にいろいろ意見や評価をもらって解決方法を考えていけると良い。運営方法についてはこの程度にしたいと思う。続いて今後の周知方法について山口委員からお願いします。

山口委員：前回、安達委員より作っても見てもらうまでに大変であった、という話もあった。お手元に12月号の広報を作った時のモノを加工したチラシがあ

る。若者がすぐに使えるようにQRコードも載せた。今回は参考なので回収し、できあがったら皆様に示し、部数を確認し配布予定。関係する皆様に色々なところで周知して頂きたい。ちらしでの周知以外で「孫育てハンドブック」「子育てハンドブック」などにも掲載して頂くことを考えた。協議会は3部署(こども部・教育委員会・健康福祉部)で構成されている。いろいろな形で周知して頂きたい。忌憚のない御意見を頂き、次につなげていきたい。

大塩会長:皆様にいろいろな形で周知していきたい、その為の協力体制やアイデアがあれば頂きたい。

伊藤委員:このサイトを見て欲しいのは若いお母さん達。周りにいる子育てを応援している人にも見て欲しいが、一番早く見て欲しいのは若いお母さん。紙もいいが、ネット社会なので市のツイッターはどうか。また、子どもの定期健診で、紙でもメールでも良いので、必ずもらえるような感じにするのはどうか。どんなお子さんでも知っておいた方が良いと思うので、自分の子どもじゃなくてもママ友が悩んでいる時に「ああいうの見たことあるよ」と紹介でき、一緒に見る事ができれば話が進む、と思う。

児玉委員:ガイドブックと同じ形のもので妊娠中、母子健康手帳交付時に一人一人にお渡ししているモノもある。現在校正の段階にあり、入れられるかどうか。健診で1枚もらうより、どこかのチラシに折り込める方がベストと思う。スタッフにはこれから周知していき、可能な範囲で入れていきたい、と思う。

墓委員:紙を配る事ももちろんであるが、最近いろいろな所に行くとQRコードがでてくる。大学で学生を見ていると、紙は見ない。もちろんどこかで何かあった時に目につくのは大切であるが、遊び場のような所にチラシのようなものが貼ってあるだけで、そこで「ピッ」とできれば見てもらえる。そういう方法もあるかな、と思った。

安達委員:次の子育てハンドブックは来年6月頃の予定。なるべく入れていく努力をしていきたい。予算要求の段階なので、確実に入れられるお約束はできないが、挟み込む形で対応していきたい。墓委員が言うように、お母さんお父さんがQRコードを読み取れるように、こどもセンター・きらっこルームにチラシを貼る事ができる。リズム遊びの時に随時PRしていきたい。

大塩会長:幼稚園・保育園・公民館など様々なところを通して、すぐ見て分かる、いつも居る所に貼ってあれば、ハッと思った時に目に入ってくる。そのような事を含めて何か考えて頂ければ、と思う。

阿部副会長：ツイッター・フェイスブックをやっている方は早速投稿して頂ければ。
大塩会長：よろしくお願ひ致します。運営方法・周知方法については、様々な御意見を頂いたが、後で思いついた時にセンターの方に気軽にお知らせいただけたら、と思う。

②発達支援サポートネットワーク会議についての報告 (小坂会長)

発達支援サポートネットワーク会議は、本協議会の下部組織として連携を保ちながら発達支援施策に関する事業と関係部局との連携について話し合いを行っている。発達支援に関する課題や取組みについて協議をしていくことを目的とし、置かれている。

第1回の本協議会では今年度の第1回、第2回の内容を報告した。本日は第3回、第4回の会議の内容について報告。第3回の会議は、9月27日に実施。

前半は、8月2日に行った「子どもたちの学び合いと育ち合いを考えるシンポジウム」の振り返りとしての意見交換、広報12月1日号に掲載した「発達支援に関する特集号」の内容についての協議を行った。

後半は、「発達支援施策に関する関係機関との連携 保護者とともに～寄り添う支援～」というテーマで、就学前の2事例について、事例を挙げての協議を行った。グループワークにおいて、保護者支援において大切なこと、今後に必要な取り組みと連携について話し合った。そこでは、子どものことを理解することと併せて、保護者の心情を理解し、保護者の気持ちに寄り添うことが本当の意味での保護者支援につながるということを再確認した。また、他機関との連携という点では、保護者の心の安定を図るために、一時保育の利用をアドバイスしたり、子育て支援課とのつながりを持ったり、正しい情報を確認して伝えることの大切さについて意見が出された。

また、他機関との連携は、総括先を決めるということも必要であるが、垣根を低くし、窓口となった人が気軽に連絡し合ったり、情報交換したりできるような雰囲気づくりができると良い、様々な情報が必要となった時には、教育委員会、こども部、健康福祉部の3部署で確認しあう形でやっていると良い、等の意見が現場の皆様、参加者の方から出された。

第4回の会議は11月15日に行い、乳幼児個別支援計画から個別の教育支援計画への引継ぎについて協議を行った。

個別支援計画を作成している年長のお子さんが小学校へ入学する際、現在は、2月～3月に実施する年度末の引継ぎと新年度の6月～7月に実施する小学校等訪問という方法で、一人のお子さんに対し、2回実施している。引継ぎに関わるのは、小学校の担任、幼稚園・保育所等の現所属機関の担任、ひまわり発達相談センターの担当者だが、個別支援計画の作成者数の増加に伴い、担当者の日程調整の困難さ、引継ぎにかかる協議時間の確保等が課題として挙げられており、現在の体制についての見直しを協議した。

出された意見は、年度末の引継ぎは、クラス編成や指導内容を引き継ぐ上で必要不可欠であるということ、新年度の学校訪問については、小学校からのニーズに応

じて、必要のある児童のみ話し合う体制でも良いのではないかと、この意見が出された。

また、その他の課題として、学校内で確実に引き継がれる体制の構築、引き継がれた新担任をサポートする体制の構築、放課後等児童会への引継ぎの必要性も挙げられた。これらの課題について、今後の会議において協議を行っていききたい。

今年度は、2月15日に第5回の会議を予定しており、個別支援計画や平成30年度のモニタリング調査について、協議を行っていく予定。

大塩会長：大変重要な内容だったと思う。報告の場合、資料を御用意いただきたい。

③平成30年度 モニタリング調査について （発せ 内村主幹）

平成27年度に「習志野市子どもの発達に関する基礎調査」を実施。今回の調査もその調査に基づいた取組みである。

第1回目に行なった調査のモニタリング調査。平成27年度に行った調査と同じ対象に行く予定。「習志野市まち仕事創生人口ビジョン総合戦略」の計画に基づいて来年度に調査を実施する計画になっているが、まだ予算編成の段階。

大塩会長：27年度に実施した調査をもう一度行って、比較するという事ですね。まだ予算がついていないので、予算がつけば実施するという事ですね。またお気づきの点があれば事務局の方へお願いします。

第2回会議は終了とします。次は評価部会になります。市の職員は終了。

(1) ひまわり発達相談センター評価部会(協議会市民委員)

① 当センターの事業実績及び保護者アンケートの結果について(報告)

山口所長より説明(評価部会資料1)

塚本主査より説明(評価部会資料2-1、2-2)

② 今後の取組みについて(協議)

大塩会長：ありがとうございました。なにか御意見御質問ありますか？

小藪委員：アンケートの回収とアンケート回収率とあるが、回収率が半分ですよ？

大塩会長：そう、48%です。

小藪委員：この半分の原因は分析されていますか？

大塩会長：この点についてはどのように受け止めていますか？

塚本主査：月に1回指導の場合は、その10月の指導日に用事ができてしまったり、体調を崩してお休みした場合、対象外になってしまうことがある。また、個別指導と小集団のグループ指導を併用している方は、どちらか1つになるので、数が減ることになる。指導者の渡しそびれ、という場合もあ

る。

墓 委員:336名は延べ人数ですか？

山口委員:対象者というのは10月末の個別・グループ指導の対象者が実336名。それに対し、何名に配布したかを把握していなかった為、半分という数字になった。塚本主査が説明したように、来るべき人が都合が悪くて来られなかった人数を除いていないので、回収率が低くなってしまった。

大塩会長:336名は10月末の利用者名簿の数字。配布数は分かっていない。この数字は配布数が減るから、(回収率)は半分以上の数字になるだろう、ということですね。

山口委員:そうです。回収できた人については分析しています、よろしくお願いいたします。

大塩会長:期間が10/1~10/30まで1か月間という期間があり、その期間の来所者で実施。その時の総配布数という数であれば違った数字が出てきたかもしれない。164件回収した、その数字であることは確か。調査を実施した場合の有効な数字というものがある。約半分は回収されている。実際は半分以上であろう、と曖昧なのが残念だった。164件の中で考えるとこれだけの%が出ているので、間違いではない。なにか御意見有りますか？

墓 委員:調査のやり方は今後工夫されたら良い。私から1点確認したい。子どもの変化はどうか？「ひまわり発達相談センター」の目的が子どもの成長・発達を促すところにある。これだけ見ると「保護者の方のサービスが満足したか」という所だけになってしまう。その子なりに何か少しでも変化があったかどうか、というのが1点質問です。

山口委員:ありがとうございます。「子どもの発達を促す」という使命でやっていますので、そういった部分を質問紙の中に入れれば良かった、と思いました。最後にまとめて「質問紙の内容を検討する」という事で記載した。次年度にそういった部分も分かるように考えていきます。

墓 委員:ありがとうございます。子どもの変化を押し並べて測るとするのは難しい。指導の先生方が評価する部分と保護者が子どもがこんな風が変わってきた、という感覚と両方合わせてみるのが大切、と思う。

遠藤委員:アンケートの年齢は「5歳まで」と元々決めてあったのか？ひまわりは18歳までとなっているが、たまたま5歳までとなったのか？5歳までを対象としたのか？また、来年度もアンケートを実施するのか？毎年実施するのか。

山口委員：御意見御質問ありがとうございます。対象者については、この度は指導に来ているのは就学前のお子さんになるので、5歳児までとした。毎年実施するか？という事については、今回は初年度だったので、何らかの形で変化が見られるようになればいいな、と思っている。今年初めて実施し、今後もう一度こういう形、また基委員から話があったところも見ていけるといい、と感じています。

遠藤委員：HPサイトを立ち上げた時に、是非思春期までを対象として欲しいとお願いしている。もし、ひまわりの全体の評価としてとらえるならば、年齢層をもっと広げて欲しい。ここは指導だけじゃない、と思う。困った時に相談したい、と思う。せっかく敷居を下げたい、と思っているところがつながるような対応のきっかけになればいい、と思ったので御検討いただきたい。

大塩会長：28年度の事業実績を見ると、就学前児童が実人数555人。就学後は小学生121人。小学生は多いですけど、それでも(就学前の)1/5。中学生15人、高校生2人ですから、就学後は小学生までをアンケートの対象としても良いのかもしれませんが。就学前と後で区切りをつけるアンケートのとり方もあると思う。555人という実人数で考えて評価をしていく。2点目、先ほど数字が曖昧である、という捉えになっていると困る。これはかなり正確だと私は思う。アンケートは間違っていないし、162人の回答を得たというのはかなりの数字だと思う。かなり正確な傾向が取れると判断していいと思う。ただ、次年度やるとすれば、配布数と回答数という事だけは明確にしたい。あと、基委員からあった内容の問題。運営の方法などの意識調査だけじゃなく、子どもの変容が大事なところ。ひまわりの役割、最大の目的。その内容を検討して評価に入れていくと説得力があると思う。よろしくお願い致します。

基委員：こうやって全体でまとめてしまうと「全体に良かった」という話になりがちなので、例えば利用年数。新しい方と慣れている方では感覚が違う。子どもの年齢で例えば3歳未満とそれ以上の年齢でクロス集計なども可能であれば。

山口委員：承知いたしました。今回は単純集計でさせていただいたが、次回そのようなところも意識して参りたいと思います。ありがとうございました。

望戸委員：実績について。専門性のあるPT・OTを学校に派遣して頂いている。「ひまわり」に通っていた子どもたちが本校に来ている。その子たちを継続して専門的な視点から支援助言を受けられるという事について、習志野市としての取り組みが素晴らしいと思う。是非継続していただきたい。

大塩会長:ありがとうございます。では「仲間づくりの取り組み」について説明をお願いします。

塚本主査より説明(評価部会資料3)

大塩会長:ありがとうございました。それでは今後の取り組みについて御意見等ございましたらお願いします。

山口委員:仲間づくりについては、始まる前に委員さんである保護者の方にご意見を頂いて、それから試行的に始めさせていただいた部分がある。そして、時々皆様に参加してくださって、見て頂き、御助言等頂きながらやってきた。そういったところも含めてよろしくお願い致します。

松尾委員:この親同士のつながりは、非常にうちとしても切実な問題。うちの施設の実状は、親たちが立ち上げた、という経緯があり設立時から親が深く関わってきた。利用者が今190名。就職をした後も「就職をしている親たちの会」という保護者会も存続している。就職しているのが400名~500名、その中で親達約160名が今もつながり続けている。保護者会活動が90名。就職をしている親達の活動が160名。活発に活動を30年くらいしてきたが、ここ4~5年の中で親の活動自体が一気に低下してきている。なかなか親達が集まりにくくなっているという現状。保護者会(月1回)をしても今までは6割~7割くらい出席率だったが、今は3割くらい。一つは親御さんたちが共稼ぎ世代。家庭の事情も諸々あって、仕事を抜けてまで出てくる必要があるか、という価値観。仲間づくりという意味でも、顔つきあわせて情報を得るより、ネット等の情報の方が非常に便利。わざわざそこに顔を出さなくても情報を取れる。ひまわりが感じている部分と同様。私共も、これから社会に送り出す子ども達を家庭と私共が同じ方向を向いて支援をしていくという事を大事に考えている以上、家庭との連携はとても大事と位置付けて考えている。是非連携をしてきたいと考えている。どう集めようかと、この1~2年試行錯誤している。一つは親御さんを主体的にしようと、親御さんたちがどういう事を知りたいか、どういう勉強をしたいか、を聞いた上で親御さんたちの聞きたいことに合わせる形での研修会を月に1回やるようにした。福祉の制度がコロコロ変わり、国の方向性の変革期なので、制度に関する情報が取れる場。情報発信の場と位置付けてやっているが、正直難しい。いろんな形を取りながら考えています。

大塩会長:組織が生きていた時代と1つの役目を終了して、次の世代に引き継ぐことがうまくいったかどうかによっても変わってくる。あるものを成し遂げてしまった事、高齢化の問題、若い方が入ってこない。役割に対する認識の違

い。様々なことがあって組織を作るのは非常に難しい。その点も踏まえたうえで仲間づくりが必要。どうやって若い世代を取り込んでいくかが大事なところ。それにはやはり魅力ある発信が必要。御意見どうですか？

松尾委員：一つ言いそびれていたのですが、若い親御さんたちが熱心に通ってくる中身は、諸先輩方のお母さんの話を聞きたい。幸いにもうちは30年間やっているの、自分のこどもの30年先の子どもを先輩のお母さん達から聞きたい。もう年齢は70歳代80歳代のお母さん達が継続的に通ってきてくれている。継続的に通ってきている中で自分の子どもの10年20年30年先の問題をダイレクトに若いお母さん達が聞いて「じゃあ今のうちにこれをやっておかなければならない」となる。若い人を取り込む、ということでは親が高齢化してきているので、新たなところでは御兄弟。親亡き後、親が高齢化した後など世代が変わった人を取り込んでいるので、今は兄弟。障がいや発達に偏りがある方の兄弟を呼び込む取り組みが少しずつ増えてきている。年に1回か2回の勉強会にしか来ないですが、その兄弟達にとってはすごく有り難い場になっている。「兄弟が背負う必要はない、兄弟には兄弟の人生がある」ということを支援者から言ってもらう事で、兄弟が安心をする。親達も安心する。新しい世代という意味では兄弟に変わってきていると思う。

大塩会長：ありがとうございます。今の取り組みについての報告を見て「いいな」と思った。他にも「いいな」と思うのは、今回の資料のようにロジックツリーと現場の事業を結びつけて考えること。そうすることで、初めて政策の具現化につながる。今日、まだ発言していない方、何でも結構ですので評価をお願いします。吉野さん、お願いします。

吉野委員：良いと思います。「きらっといっぽの会」で主にホームページに参加させていただいています。職員の皆さんの真面目で前向きな姿勢がすごく伝わってくるので、こんなに沢山の方がこんなに沢山の時間をさいて、いろんな事を考えて、できあがったものが、お母さん達に早く伝わればいいな、と思う。できたホームページでどれだけそれが表現できているかな、と思う。体験談とか私たちが話していかないと広がっていかないとと思うので、みなさんの努力を語っていきたい、と強く思う。

大塩会長：ありがとうございます。伊藤さんお願いします。

伊藤委員：私、仲間づくりのヨガに2回程参加したのですが、難しいな、と思ったのが、どこまで体験談を話していいのかな、というのが正直ありました。あまり重めの話をする、心配になってもいけないし。最後にアンケートをとって

頂いて「こんな話を聞きたい」とかあれば、こちらも打ち出しやすい、と思っている。

大塩会長:ありがとうございます。小藪委員さんお願いします。

小藪委員:私、組織作りというのは、10年ある会長をやって、30年現在続いている。私も高齢になって引退したらガタガタっと今崩れている。これは何が原因か考えてみました。私は組織作りの第一は出席者の方がここへ来て何に一番興味があるか、を会長が事前に汲み取らないと組織は崩れていく、と思っています。具体的に何か考えながら、やっていただければ、と思う。

大塩会長:ありがとうございました。最後に阿部さんから。

阿部副会長:自分の娘の事を振り返って、今17歳になりますが、2歳の時のグループ指導のお母さんとまだつながりがあります。その時の絆「こういう仲間がいる」というだけで。そういうネットワークがすごく大切。そういうつながりが後々すごく大切だということをお母さん方が感じ取ってくださればいいな、と思う。まずは続けていくこと。テーマを決めて、お母さん達が主体的になれるように。お母さん達に生き生きして欲しい。

3. 閉会

大塩会長:これを持ちましてひまわり発達相談センター評価部会を閉会させていただきます。ありがとうございました。